

学び合い、高め合いの教育の追求

全国協同学習研究会会報 2004年度 4号

発行日：2004年3月30日

事務局

全協研第36回大会報告

神戸大学発達科学部

全協研第36回大会事務局

伊藤 篤

2005年2月18日（土）、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸大学発達科学部の後援を受け、神戸大学発達科学部附属住吉中学校におきまして、全国協同学習研究会第36回大会が開催されました。大会テーマは「広げよう 協同の理念 深めよう 協同の実践」でした。

今大会の特徴は、公開授業の担当者および分科会の提案者がすべて附属住吉中学校の先生であり、ジョンソンらによる協同学習の諸要素を取り入れた授業を導入した初期段階における成果と課題を参加者の方々に公表し、よりよい実践につながるための理論と方法を検討しあうという点でした。また、新しい取り組みとして、協同学習を参加者の方々に実際に体験していただける場として、2つのワークショップを実施しました。

北海道から沖縄県まで全国各地からの参加がありました。一般予約参加者が42名、当日参加者が26名、助言者・役員等が16名、発達科学部教員等が5名、分科会提案者が8名、その他スタッフが14名で、合計111名のご参加をいただくことができました。

まず、13：00から、全体会が開かれました。開催校である神戸大学発達科学部附属住吉中学校長である山崎健(神戸大学発達科学部教授)先生より、附属中学校におけるこれまでの協同的な小集団学習に関する取り組みも含めた挨拶がなされ、引き続いて、全国協同学習研究会会長である杉江修治(中京大学教授)先生より、協同によって私たちにもたら

される豊かさを確認し広めていくことの大切さを中心としたお話をいただきました。さらに、次年度の開催校が東京都練馬区立練馬第三小学校であることの紹介と、同校校長の荒木正志先生より簡単なお挨拶をいただきました。

公開授業が13：20から始まりました。理科・保健体育・社会・数学の4教科の授業が教室および体育館でおこなわれました。授業者は、順に、上田浩司先生・石丸幸勢先生・乾正学先生・前田裕次先生でした。

14：20からは、教科毎に4つの会場に分かれ、上述の先生方による公開授業についての説明と同じ教科の別の先生方（順に、大黒孝文先生・渡邊司幸先生・上村幸先生・岡部恭幸先生）による授業実践についての提案がなされました。前者には単元の途中までの実践内容が、後者にはすでに単元を終え一定の評価結果が盛り込まれた内容が含まれていました。

第1分科会：理科（助言者 小島幸彦先生）では、国立研究所のデータと比較して協同学習の効果を検討している点の良さ、特定の生徒にだけ情報を与えて「個人の責任」を導入するときのリスク、授業中に使用したコンセプトマップウエア（あんどう君）の効果と協同による効果の弁別などに関する議論がなされました。小集団のなかで、各生徒が「自分が必要とされている」「他者から高く評価されている」と感じられるような環境づくり、つまり、自尊心の向上をもたらす仕掛けを協同学習が備えていることが強調されていました。

第二分科会：保健体育（助言者 壘水尾祐文先生・石田裕久先生）では、一人で組み運動（演技）することが困難な生徒も他者と一緒によって苦手意識が「自分にも出来る」「楽しい」と思えるように変化することの重要性が議論され、役割の交代の時期や頻度に対する質疑応答もなされました。

第三分科会：社会（助言者 有本高尉先生・安永悟先生）では、生徒が自分たちで立てる仮説と教師が与える仮説との関係および仮説に基づいて調べた内容をどのように小集団で学び合うのかに関する活発な質疑応答がなされ、リーダーの決め方や役割、教師主導の方法との比較、話し合う内容を教師側が絞り込むこと・伝えてしまうことの功罪など幅広い討議もなされました。

第4分科会：数学（助言者 太田外康先生・小石寛文先生）では、学力レベルの違う生徒に協同が効果をもつのかどうかの議論、数学（教科）の視点から協同学習を捉え直すことの必要性、学習意欲の高まりの測定やリーダー学習に関する質疑応答、リーダー以外の子どもの責任感がちゃんと高まっていること、4つの実験を班内の4人のメンバーで別々にしたほうが良いという提案、協同学習によって学力と高校受験の学力との関係性についての議論などがなされました。また、最後に、子どもどうしのかかわり大切であることを教師がしっかり認識していないと、協同やバズは単なる形式になりがちであること、かかわるからこと得られる学びを意識して授業を組み立てる重要性が提起されました。

16：00からは、2つの会場でワークショップがおこなわれました。ワークショップ

①「明日からはじめる協同学習：協同学習入門講座」では、講師の関田一彦先生（創価大学）より、協同学習の考え方と様々な技法が紹介され、そのなかから、どの教科でも使いやすい汎用性の高い技法を参加者の方々に体験していただきました。ワークショップ②『千と千尋』を協同学習で楽しもう：協同学習体験講座」では、講師の遠藤瑛子先生（同志社大学）より、ご自分の大学でも実践され手応えを感じられている、「千と千尋」を教材とした協同学習をおこなっていただき、協同による「観る世界の広がり」や「メディアを読み解く」ことの重要性を参加者の方々に実感していただきました。

大会終了後におこなわれた懇親会には33名のご参加をいただきました。石田裕久先生の司会進行のもと、非常に楽しい雰囲気の中、本大会に対する感想や意見を交えながら互いに交流していただきました。本大会をきっかけにして、大会テーマでもある「協同の理念」や「協同の実践」が今後さまざまな場で展開していくことを願いながら1日の日程が終了いたしました。

最後になりましたが、当日、全国各地から神戸に来ていただきました参加者の皆様と、大会の運営を支えていただきました副校長の齋藤佳昭先生をはじめとする附属住吉中学校の教諭の皆様・ご父兄の皆様にご心より感謝いたします。

各地区の協同学習

今回は、「東京都協同学習研究会」と「小松市」の2地区から寄せられた報告です。

1 東京都協同学習研究会からの報告

東京都協同学習研究会事務局長 望月和三郎

1 第37回全国協同学習大会を東京で開催する

大会主題：～学習意欲と学習内容向上の同時達成を目指して～（仮題）

期 日：平成18年2月10日（金）11：35～16：15

会 場：練馬区立練馬第三小学校

内容予定：授業公開（全12学級と心障4学級）

開会行事

分科会（1分科会2提案の予定）

講演 サンツ中村橋商店街振興組合理事長 川口利夫氏「結いの文化」予定
閉会行事

東京都、練馬区教育委員会の後援申請予定

※全国各地からの提案並びに参加をお願いします。

※詳細が確定次第発表していきます。

※なお全協研に引き続き、日本協同教育学会を練馬区立練馬第三小学校で開催予定

期日：平成 18 年 2 月 11 日（土）～12 日（日）

2 各学校の活動内容等について

小学校関係

(1) 学習会：練馬区立練馬第三小学校で月 1 回、18:00～20:00。若い教員の自由参加で実施。「数学的な考え方」の捉え方とアドラー心理学の入門の学習を進めている。

4 月から「協同学習研究会」として学習する。創価大学教授関田一彦先生も参加していただく予定。年間予定はこれから作成する。

(2) 学習公開：練馬第三小学校。校長 荒木正志先生と担任及び少人数指導担当の 4 人で実施した。

- ・平成 16 年 11 月 5 年「平行四辺形と三角形の面積」の 1 単元
単元末テストで 20 問中 16 問以上の正答率 81%の高率であった。

- ・平成 17 年 1 月 4 年「長方形・正方形の面積」の 1 単元
単元末テストで 20 問中 16 問以上の正答率 87.5%の高率であった。

◎学習意欲も高く、相談タイムのある学習指導は、学習意欲と学習内容定着の同時達成できる 1 つの方法といえそうである。

◎4 年生の授業を新潮社の記者 2 名が数回参観し「面白い」という感想を得た。

中学校関係

いくつかの学校で、地区教委の研究指定を受け、授業改善への取り組みが始まろうとしている。それらの学校の重点項目（特に強調している内容）をあげる。

①校内研究授業（いくつかの教科での少人数授業）の実施

②授業改善をテーマに、意見交換会と指導案の作成

③校内研修会で講師の指導を受ける。

④読解力向上を目指して、朝読書の実施、期間限定で新聞切り抜き実施（NIE）

⑤基礎学力定着への取り組み

⑥その他

※年度評価をもとに 17 年度へ向けての準備をし、新年度早々から本格的に取り組む態勢ができています。

2005.3.6.

2 小松市の授業改善の試み

小松市教育委員会学校教育課指導主事 石田恵一

小松市では、「確かな学力」の育成のため、子どもの側に立った授業改善を進めています。黒板を背にして指導案を作るのではなく、黒板に向かい子どもの側に立って授業を組み立てることにより、子どもの意欲を引き出す授業を創造したいという多くの先生方の願いにもとづく研究が、市内の各校で進められています。研究授業でも、子ども達に、わかる喜び、授業に参加する喜び、学びあう喜び、やり遂げる喜びを実感してもらうために、授業をどう組み立てるのかについて熱心な議論が見られます。

ただ、子どもの側に立った授業改善は、言うは易しですがなかなか難しいというのが正直なところです。その原因として、どうしても私達は教えることに熱心ですが、本当の意味で子ども主体の授業を組み立てる意識や経験がやや不足していることがあげられると思います。熱心になればなるほど教えすぎるといふ善意の悪循環もしばしば見られます。また、子ども達が主体的に考え話し合っているけれど、学びが深まっていかない授業実践も多く見られます。

試行錯誤の中で、3年前犬山での授業交流会に参加し、杉江先生のご講演を伺う機会がありました。学びは、学習者の主体的な営みとしての学習活動であり、学びの実現のための原点は、学習者の意欲、学習者の学習への動機付けにあること、そして意欲を引き出す授業改善のために、「参加」「協同」「成就」の3つのキーワードを授業過程で実現することが大切であることなどをわかりやすくお話いただきました。大変共感する部分が多く、ご講演後すぐ控え室に押しかけご指導をお願いしたことを記憶しています。

先生には、平成15年度の小松市夏期研修でご講演いただくと共に、今年度は小松市教育委員会主催の授業力向上研修会に3度お越しいただき、具体的な授業に関してご助言いただくと共に、ミニ講演会をお願いし、子ども達の意欲を引き出す授業実践のために、学習の見通しを持たせることや課題を明確にすること、課題を達成するために何をすべきかを明確にすることなど、多くのご指摘をいただきました。

この3年間の授業改善に対する取り組みの成果をいくつか紹介したいと思います。まず、子ども主体の学習は、深い子ども理解と深い教材研究が前提であるという認識が一層自覚されたことが挙げられます。このあたりが曖昧だと子ども達の学びが深まらないと痛感しています。また、学習の意味や単元のねらい、その単元の学習がどのように進められるかを子ども達に伝え、子ども達が見通しを持って学習に取り組めるための工夫がなされ、各教室の掲示物やワークシート等にもそのことが表れています。単元の見通しだけでなく、授業がどのように進められていくのかを子ども達と共有し、このことが学習の構えを構築する上でずいぶん役立っているようです。例えば、課題を自分の力で一生懸命解決した後、自分の考えを伝え合い高まり合う場面があることを十分理解した上で、意欲的

に学習に参加している様子を市内の学校で数多く拝見することができました。

運動会・文化祭や部活動などにおいて、子ども達が意味のある明確なゴールを認識し、その目的のために一人一人が役割を自覚し責任を果たしながら一つの目標を実現する、一つのことを創造していくエネルギッシュな姿を学校でよく見かけます。子ども達が本気になり心を合わせたときに、力以上のものを発揮し、そこに個人と集団の成長があり大きな感動があることを、先生も子ども達も経験的に知っています。そのことを、授業で実現したいのです。私自身、協同学習を十分学習しているわけでもなければ、実践しているわけでもありません。ただ、つつい子どもの側に立つことを忘れ、教え込むことすらある中で、子どもから始まり子どもに戻るバランスの良い授業を創造したいというのが私達の願いです。そして、そのことは教えることを否定することではないとも思っています。学級経営の充実をも含めた土台作りをきちんとした上で、子ども主体の学びの創造を目指していきたいと考えています。

図 書 紹 介

『先生のためのアイデアブック—協同学習の基本原則とテクニック』

ジェイコブス、パワー、イン 著（関田一彦・伏野久美子・木村春美 訳）

日本協同教育学会 刊

アメリカの協同学習研究者、ジェイコブスを中心にまとめられた協同学習の入門書です。協同学習の基本的な考え方と、それを実現するための多数の協同学習の技法が紹介されています。

なお、まだ一般に販売されていませんので、入手には日本協同教育学会に、ホームページ（<http://jasce.jp/>）からお問い合わせください。

『犬山の少人数授業—協同原理を生かした実践の事例』

杉江修治編著

一粒社 刊

協同教育叢書の9巻として出された本です。犬山市の教師たちの月1回の授業研究会から生まれた、小学校算数の少人数授業の実践研究を集めたものです。

なお、地方小部数出版ですので、直接出版社にご注文ください

会 務 報 告

2004 年度役員会で承認された事項をご報告します。

1 2004 年度事業報告

○会報の発行（1号：6月30日、2号：9月11日、3号：12月8日、4号：3月に予定）

○第36回全国大会開催（2005年2月18日） 於、神戸大学発達科学部附属住吉中学校

○2004年度役員会（2005年2月19日）於、神戸大学発達科学部

2 2004 年度会計報告（中間）

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
前年度繰り越し	454015	事務局消耗品	4305
会費収入	96000	郵送料	37068
		大会開催援助費・振込手数料	100350
収入合計	550015	支出合計	141723
現在残高	408292		

3 役員について

2005 年度の役員体制

役職	氏名	所属	氏名	所属
会長	杉江 修治	中京大学		
常任委員	石田 裕久	（事務局長）南山大学	伊藤 篤	神戸大学
	望月和三郎	東京都研究会事務局長	久保田 滋	芦屋大学
	丸山 正克	豊川市	小島 幸彦	中津川市
	霜 和実	春日井高森台小学校	加地 健	犬山市教育委員会
委員	市川 千秋	皇學館大学	石田勢津子	名古屋外国語大学
	鹿内 信善	北海道教育大学	小石 寛文	神戸大学
	宇田 光	南山大学	関田 一彦	創価大学
	安永 悟	久留米大学	荒木 正志	練馬第三小学校

	塚水尾祐文	青梅市立泉中学校	田川 正樹	春日井西尾小学校
	今飯田 寛	春日井不二小学校	楓 正敏	中津川坂下中学校
	加藤 一哉	恵那市立北小学校	有本 高尉	犬山楽田小学校
	大関 健道	野田市教育委員会	平位 隆明	姫路旭陽小学校
顧問	梶田 正巳	中部大学	前田 義夫	明石
	永井 辰夫	姫路	新田 正彦	広島
	荻原 克巳	春日井	池田 洋	尼崎
	西村 精爾	春日井	稲垣 菊夫	春日井
	今尾 啓一	春日井	松本 重雄	春日井
	岩田 鎮人	春日井	加藤 孝史	春日井
	阿部 吉一	春日井	有元 佐興	東京
	木村 幸夫	東京	越智 昭孝	広島
	林 典照	名古屋工業高校	長谷川貢一	阿佐ヶ谷中学
	寺井 正輝	春日井	堀場 正美	春日井
	後藤 東一	土岐	長縄 秀孝	春日井

4 会則の改定について

研究会の大勢の変更に伴う内容調整が行われた。

全協研会則（アンダーライン部、2004 年度役員会での変更箇所）

第1章 名称と事務所

第1条 本会は、全国協同学習研究会と称する。

第2条 本会の事務所は、当分の間、 ██████████ 南山大学人文学部石田裕久研究室内に置く。

第2章 目的と事業

第3条 本会は、全国における協同学習の研究ならびに実践を促進し、会員相互の連携協力を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 全国研究大会および総会の開催。
2. 各地の協同学習研究組織と密接に連携し、その研究活動に協力する。
3. 各学校の行う協同学習の研究ならびに実践に協力する。
4. 会報その他の刊行物の編集発行。
5. その他必要な事業。

第3章 組織と運営

第5条 本会は、下記の会員をもって構成する。

1. 正会員および団体会員 個人または団体で、本会の趣旨に賛同し委員会の承認を得たもの。
2. 賛助会員 本会の趣旨に賛同しその事業を援助する個人または団体で、委員会の承認を得て、年1口（10000円）以上の賛助金を納入するもの。
3. 名誉会員 本会の運営に功勞のあったもので委員会が推薦し、総会の承認を得たもの。

第6条 本会の事業を運営するために、下記の役員をおく。

1. 会長 _____ 1名
2. 常任委員 _____ 若干名
3. 委員 _____ 30名まで
4. 顧問 _____ 若干名
5. 監査 _____ 2名

第7条 会長は委員の互選による。会長は、本会を代表し会務を処理する。

第8条 委員は、幅広い学種、地域より選出する。選出の手続きは別に定める。

第9条 委員によって委員会を構成する。委員会は、会長がこれを主催し、会の重要な事項を審議する。

第10条 常任委員若干名は、委員の中から会長が委嘱する。常任委員は、会長を補佐する。

第11条 会長および常任委員によって常任委員会を構成する。常任委員会は、会の運営上緊急を要する事項を審議する。

第12条 委員は、地区研究組織を確立し、研究を推進する。

第13条 監査は、本会の会計を監査する。

第14条 会の運営に当たっては事務局をおく。事務局には、会長の委嘱により、事務局長をおく。

第15条 顧問は名誉会員のうちから会長が委員会に諮り選任する。

第16条 顧問によって顧問会を構成する。顧問会は会長の諮問事項について審議し、意見を具申する。

第17条 委員の任期は2年とする。ただし、重任をさまたげない。

第4章 会計

第18条 本会の経費は、会費・寄付金などにより支弁する。

第19条 正会員の会費は、当分の間1年間につき2000円とする。団体会員の会費は、1年間につき10000円とする。なお、賛助会員、名誉会員からは会費を徴収しない。

第20条 本会の会計年度は、毎月4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第21条 会費を3年以上未納の場合は、退会とみなす。

第5章 全国研究大会および総会

第22条 全国研究大会は、原則として毎年1回開催する。

第23条 全国研究大会の企画運営は、委員会と連絡のうえ主催者に任せられる。

第24条 総会は、会員によって組織し、会長がこれを主催する。

第25条 総会は、委員会提出の議題その他の運営上必要な事項を審議する。

第26条 総会は、毎年1回全国研究大会時に開催する。

付則

1. 本会の会則の改正は、委員会の審議を経て、総会において決定する。
2. 本会則は、1980年4月1日から施行する。
3. 第22条の全国大会は、主催者に任せられるが、研究者による研究発表と実践者の
実地指導を含むこととする。

5 2005年度事業計画

- 会報の発行（年間4回）：会員の交流と協同学習情報の提供を図る
- 第37回全国大会の開催
- 2005年度役員会の開催
- 協同学習ワークショップの開催

6 2005年度予算編成方針

- 会報の発行とそれに関わる郵送料。なお、e-mailが可能な会員にはメールによる配信をもって経費節減を図る
- 大会開催校への10万円の補助金支出
- 年度会費徴収への努力

7 第36回大会報告

- 大会事務局より概要の報告（伊藤篤氏）

8 第35回大会会計報告

- 開催校より報告（楽田小学校校長 有本高尉氏）

9 時期大会開催地について

- 練馬区立第三小学校（校長 荒木正志氏）を予定。
- 期日：2006年2月10日（予定）

付録：CL スキルの一例

CL スキル名： 学習ステップ別役割ローテーション
内容： 課題への取り組みのステップをグループメンバーの人数分用意し、ステップごとにそれに従事する者を指定し、順に取り組みさせる
手順： ① 取り組む課題をいくつかのステップに分ける。できればグループメンバーの人数分、またはその倍数になるように。 ② 課題提示後、座席にあらかじめ振った番号を用いて役割の指定を行う。 例) 問題をボードに書く係/計算をする係/検算をする係/クラスに解説をする係 ③ 役割に沿って順に仕事を果たしていく。 ④ グループの結果の発表、全体交流。 ⑤ 次の課題は役割をひとつずつずらし、ローテーションしていく。
留意点： <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割が済んだら終わりではない。グループ発表を立派にやろうというグループの課題への責任を果たそうというまとまりが持てる指導があらかじめ必要になる。 ・ 取り組みをステップに分けるところが準備として大変である。 ・ 不得意な者に役割が回ったときは仲間の援助が当然のこととしてなされる体制づくりが必要。 ・ 課題のステップが人数で割り切れない数の場合、次の課題に取り組むときのスタートの者は順にずらしてもかまわない。
実践への適用： 算数の文章題への取り組み（ワンステップごとに深まっていく形の教材が適している）など。

* アメリカの協同学習の有力な流れの一つであるケーガンらの協同学習では、協同学習の技法を集めています。その中味はおいおい日本協同教育学会（JASCE）を中心に、本やワークショップで紹介されていく予定です。一方、日本でもさまざまに協同学習のための効果的な手続きの工夫が重ねられてきています。その一例を上にあげました。会員の皆さんも、これと似たような形で、ご存知の、または実践しておられる協同学習の工夫をご連絡ください。この会報で紹介いたします

（全協研事務局）

次期大会開催について

全協研大会とJASCE大会のジョイント開催を予定

- 次期大会は上にお知らせのとおり、2006年2月10日を予定しています。
- 会場は東京都、練馬区の練馬第三小学校。
- 池袋から西武池袋線で6つ目、中村橋駅から歩いて5分と、便利なところです。

- 今回は各地の実践を多く持ち寄っていただく会になると思います。
- ぜひ立候補ください。ご連絡は事務局まで。

- また、大会翌日と翌々日には日本協同教育学会（JASCE）の研究大会も同じ会場で開催されています。
- 協同学習のワークショップなど計画されています。
- 土、日にわたる会ですから、こちらも参加のご予定をお立てください。

事務局からのお願い

振込み並びに全国大会当日に会費納入いただいた方、ありがとうございました。

会費未納の方、会費納入よろしくお願ひします。

1年分2000円です。

会の財政はきわめて逼迫しています。

昨年度未納の方は4000円の納入をお願いいたします。

郵便振替 □座番号：名古屋前山郵便局 00800-8-166589
□座名称：全国協同学習研究会

事務局からもうひとつ

協同学習のよさをぜひ広げたいと思います。どうぞ、多くの方をこの研究会におさそいください。

事務局からさらにひとつ：e-mail アドレスをお持ちの方へ

この会報並びに様々なご案内をe-mailで送ってもかまわないという会員の方々は、空メールで結構ですので事務局宛 XXXXXXXXXX、アドレスをお教えください。経費節減という事務局の勝手なお願いですが、ご協力いただければありがたく存じます。